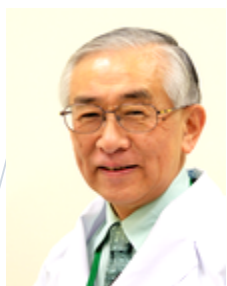


東都文京 だより

2021年7月1日 第26号

発行：医療法人社団大坪会
東都文京病院広報委員会
〒113-0034
東京都文京区湯島3-5-7
TEL: 03-3831-2181

—東都文京病院2021年の夏—



うっとうしい日が続き梅雨明けが待ち遠しく思われます。WHOが新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミック宣言をしてから1年4か月になろうとしています。累積感染者数は(6/25現在)、世界全体で1億8千万人となり、米国3,359万人、日本79万2千人、死亡者数(死亡率)は(6/25現在)、世界全体で390万人(2.2%)、米国60万3千人(1.8%)、日本1万4千人(1.8%)となっています。また、COVID-19変異株の出現による感染拡大もあり、いまだ沈静化の気配はありません。

このようなパンデミックの状況で、1年延期された東京オリンピック・パラリンピック2020は、オリンピックが7月23日から8月8日、パラリンピックが8月24日から9月5日に、「十分な感染対策下」に開催される予定です。しかし無観客ではない開催の感染対策は極めて難しく、感染が拡大する契機になることが危惧されます。

一方、COVID-19ワクチン接種実施(6/24現在、1回接種)は、世界全体では22.6%、米国53.9%、日本20.1%と報告されています。東都文京病院でも5月より院内医療従事者を対象としたワクチン接種を開始し、その後文京区の高齢者を対象として週300人の接種を行っています。今後、対象を拡大して週540人の接種を引き続き実施する予定です。地域の皆様への早期ワクチン接種に尽力いたします。

東都文京病院は、東京都の要請に応じて、発熱外来、PCR検査、COVID-19(中等症以下)患者さんの入院受け入れなどの体制をさらに継続いたします。スタッフから感染者を出さないこと、院内感染を起こさないこと、などを心掛けながら、できるだけ一般診療も継続してまいります。皆様のご理解、ご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

2021年7月1日
東都文京病院院長 杉本充弘

～子供たちと変異株～

新型コロナウイルス感染症の流行が始まってから一年半になります。当院の小児科では感染症患者の診療において、時間的・空間的な距離を維持することに力を入れていますが、変異株が広まった現在も、小児の新型コロナウイルス感染症の患者は減多にいません。

「変異株は小児でも感染しやすい可能性がある」という情報がマスメディアで大きく取沙汰され、第3波の到来とともに「保育園や学校のクラスター」が報道されていましたが、この現実との分離について考えてみたいと思います。

まず変異株が登場した初期の情報は、わずか110名を解析した「速報」であり、あくまでも「可能性」の話でした。その後数カ月の情報の蓄積で発表された第2報では、変異株15451例(2021年2月10日～5月6日)の解析で変異株PCR陽性の方と陰性の方で、0-17歳の患者の割合はほぼ同じでした。18-39歳の方は変異株で1.5倍と大きな差があるので、18-19歳の方は多い可能性はあります。厚生労働省は、現時点でも小児の動向には注意が必要と判断していますが、「子供も感染しやすいという明らかなデータはない」としています。

日本小児科学会の20歳未満を対象としたデータベースでは、2000人を超えるデータ(2021年6月末時点)の中で変異株症例も従来株症例も家族内感染が3/4程度、学校・保育機関での感染は1割程度としています。ということは子育て世代の感染が増えると、「家族内感染で小児の感染者数が増える」可能性はありますが、これは本質的な問題ではありません。

どうか公園で遊ぶ子供たち、元気に学校に行く子供たちに対して、温かい目で見守ってあげてください。オンラインの経験だけでは子供は成長できません。

我が国の将来のため、子供たちの活動が必要以上に制限されないよう、切に願っています。



東都文京病院
小児科 武井 剛

病院ホームページURLはこちら

<https://www.tohtobunkyo-hp.com/>

お気づきの点などございましたら、広報委員会までお知らせいただきますようお願いいたします。